

広島県立文書館におけるボランティア活動

ボランティアの前身 — 「平成 30 年 7 月豪雨」における被災文書保全活動 —

- 広島史料ネットとの協働 (2018 年 7 月～)
→ 古文書解読同好会員の有志も史料ネット会員に登録し保全活動に参加 (10 月～2019 年 12 月終了)
↓
- 2020 年 3 月～コロナ禍での臨時休館・諸事業中止により文書館ボランティアの検討中断
- 2022 年～文書館ボランティアの検討再開・予算化



冷凍した文書の解凍・乾燥



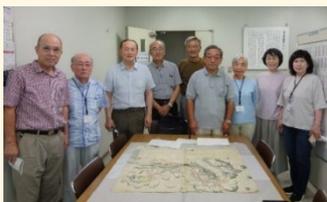
水損文書の固着開拔



被災した掛軸の解体

「広島県立文書館ボランティア」の発足

- 被災文書保全活動の経験者にボランティア参加への呼びかけ
- 活動の準備：ボランティア保険への加入
：古文書整理に必要な資料、用具類、作業場所など
- 参加希望者との顔合わせ (2023 年 5 月 8 日)
- ボランティア活動の開始 (2023 年 6 月 5 日)
- 活動日時 毎週月・水曜日
10:00～15:00
- 活動場所 文書館研修室
- 活動内容 古文書の整理
文書の簡易な補修
襖の下張り文書の剥離作業
古文書解読 ほか



広島県立文書館ボランティアの皆さん

ボランティア活動のまとめ (2023 年 6 月～2024 年 1 月)

- 活動日：のべ 61 日
- 活動参加者：のべ 441 名
- 古文書の整理 (仮目録作成)
：庄屋文書 (約 2,300 点)
：寺院文書 (132 点)
：家文書 (和書 34 冊)
- 手書き目録のデータを Excel に入力
- 中性紙の折込帙の作成
- 補修 (和書のはがれた題箋の糊付け)
- 被災した屏風の下張り文書の剥離作業
- 襖の下張り文書の剥離作業
- ※「ボランティア活動通信」(No.1・No.2) を HP で公開
- ※ボランティア懇親会 (4 回)



ボランティア活動通信

古文書の整理



古文書のドライクリーニング、手書き仮目録の作成、文書の収納



仮目録のデータ入力



整理を終えた古文書

手作りの折込帙の作成



ボランティア活動での 様々な取り組み

文書の簡易な補修



和書の剥がれた題箋の糊付け

和書の整理



和書の目録作成

応急処置を終えた被災文書への対処

2023 年 10 月 18・19 日 国立歴史民俗博物館の天野真志氏、東京大学史料編纂所の山口悟史氏、奈良県立橿原考古学研究所の奥山誠義氏と中尾真梨子氏、安田女子大学の安田容子氏が来館され、「平成 30 年西日本豪雨」で被災した文書に残留している臭気や劣化した文書への対処について助言をいただいた。被災した屏風の下張り文書の剥離もご指導いただいた。



応急処置を終えた文書の状態の確認と今後の対処の検討



襖の下張り文書の剥離作業

2023 年 12 月 11・12 日、神戸大学の松下正和氏、兵庫県立歴史博物館の吉原大志氏に襖の解体と下張り文書の剥離作業をご指導いただき、ボランティアと職員で作業に取り組んだ。2024 年 1 月 29・30 日にも、下張り文書の剥離作業と、剥離した下張り文書の補修 (裏打ち) などについて、松下氏にご指導いただいた。



松下氏による作業前の解説



襖の縁の計測と解体



屏風の下張り文書の剥離作業



襖下張り文書の剥離作業



破損した下張り文書の裏打ち